

集い・交わり・語らい・楽しむコミュニティゾーン

伯耆しあわせの郷だより

【発行】 伯耆しあわせの郷 ☎ 26 - 5581 <http://www.shiawasenosato.jp>
指定管理者 旭ビル管理株式会社



毎月発行している、「伯耆しあわせの郷だより」が今月号で400号になりました。当館の開館時から30数年かけての数字です。今後も長く続け1000号まで目指したいものです。

問い合わせ下さい。

まだ、受講可能な教室もありますので、電話にてお問い合わせ下さい。

受講生みなさんの生活が、楽しく充実したものとなるように、全力でサポートしていきますので、よろしくお願ひします。

また、10月は創作・文化教室の後期スタートの月でもあります。多くの方に新たに教室にお申込みいただき、ありがとうございます。

詳しくは2面に掲載した案内をご覧ください、ぜひお越しください。楽しんでいただけること間違いなしです。

さて、10月3日(土)・4日(日)には、「第17回伯耆しあわせの郷まつり」を開催いたします。創作・文化教室の作品展示、スポーツ教室のステージ発表と「しあわせの郷の実り」を、皆様に存分にお届けすることができると思います。

長く厳しい暑さ、地震に大雨と、自然の猛威を実感した夏も終わり、「実りの季節・秋」がやってきました。

「実り多き秋の到来です」

※申し込みは10月1日(木)から先着順にて受付、定員になり次第締め切ります。

※受講料は初回前納。納入された受講料は原則返金いたしません。

※受講料のほかに材料費などが必要です。

受講生募集

教室名・講師	日時	回数	定員	受講料
フレイル予防のバランスごはん 「大山おこわ他」 管理栄養士 小田 秀さん	10月17日(土) 10:00~13:00	1回	各24名	700円 (要材料費)
韓国料理を作ろう! 「チーズタッカルビ他」 調理師 西尾 春代さん	10月18日(日) 10:00~13:00	1回	30名	700円 (要材料費)
薬膳料理教室 「秋の松風焼他」 国際薬膳調理師 管理栄養士 竹本 晶子さん	10月24日(土) 9:30~13:00	1回	24名	700円 (要材料費)

** 今月の休館日 **

10月5日(月)、10月13日(火)、10月19日(月)、10月26日(月)

観る

4(日)
10:00~

ステージ発表コーナー

上北条保育園 10:00~
3B体操 10:05~
民謡 10:25~
和楽衣箱(わらいばこ) 11:00~
きもの着付け 11:35~
太極拳 12:00~
フラダンス 12:20~

和楽衣箱(わらいばこ)



太鼓・篠笛・舞踏・獅子舞・南京玉すだれなど和楽で楽しませるステージをお贈りします。

食べる

4(日)
10:00~

フードコート

から揚げ・焼きそば

韓国料理(キムパブ他)

カフェ風ランチ(ハンバーガー他) 11:00~

野菜軽トラ市・イカ焼き・カレーライス

焼き菓子・コーヒー他



お茶席

4(日)
10:00~

小笠原流煎茶教室

300円



楽しむ

縁日コーナー

4(日)
10:00~

射的・輪投げ
スカットボール

各100円



第18回

伯耆しあわせの郷 まつり

体験する

体験コーナー

買う

販売コーナー

3(土)
13:00~

織物・絣小物・竹細工
陶芸作品

4(日)
10:00~



3(土)
13:00~

織物体験

4(日)
10:00~

織物体験
陶芸体験(有料)
水墨画・日本画
似顔絵
ものづくり道場
骨密度診断



観賞する

展示コーナー

3(土)
13:00~



4(日)
10:00~

絵画 水墨画・日本画 書道 写真 陶芸 関金陶芸 仏像彫刻
和布細工 レザークラフト 文芸 きもの着付け 似顔絵 竹細工
織物 編み物 ソーイング パッチワーク マレボジャ韓国語

令和8年

10月3日(土)

13:00~17:00

4日(日)

10:00~14:00

3日は、通常通り送迎バスを
運行します。



4日のみ、臨時送迎バスを
運行します。



4日の
臨時時刻表
西倉吉発 9:25 10:25 11:25 12:25
伯耆しあわせの郷発 12:00 13:00 14:15 14:45

編集後記

谷口ジローさんの名作「遙かな町へ」が映画化され、10月9日より全国公開される。このことは単なる話題づくりではなく、倉吉の時間や空気感そのものが作品として残る出来事だと感じる。本作は倉吉市内の旧市街地、白壁土蔵周辺などで撮影されており、私たちがとってなじみ深い風景が映し出されるだろう。

この映画に特別な思いを抱くのは、舞台が倉吉だからというだけではない。故郷や家族、自分の来し方を見つめ直す物語は、時代や世代を超えて人の心に届く力を持っている。懐かしさの中に人生の問があり、静かな物語の中に深い余韻がある。そんな作品の世界観と倉吉の落ち着いた町並みはきつとよく似合うだろう。観光地としての華やかさだけでなく、暮らしの温度や人の記憶がにじむ町としての魅力が、スクリーンの中でどのように描かれるのが楽しみでならない。

また、この映画は県外の人にも倉吉を知ってもらおう大きなきっかけにもなるだろう。けれども本場の価値は、それ以上に、私たち自身が自分たちの町をあらためて見つめ直せることにあると思う。見慣れた道、昔からある建物、季節ごとに表情を変える玉川べりの風景。そうした日常が映画を通して特別なものとして映るとき、私たちが倉吉に暮らす意味や誇りをもう一度確かめられるのではないだろうか。

映画「遙かな町へ」は、遠くへ届く作品であると同時に、私たちの身近にある倉吉の魅力を照らし返してくれる一本になると期待している。